

5. 7 成熟したシビルエンジニア活性化小委員会

1. 平成 19～20 年度までの活動

「成熟したシビルエンジニア活性化小委員会」は、平成 19 年に教育企画・人材育成委員会の中に設置された小委員会であり、成熟したシビルエンジニア所謂シニアエンジニアの活性化方策について研究を行ってきた。

平成 19 年度、平成 20 年度の 2 年間の調査・研究の成果は「成熟したシビルエンジニア活性化小委員会 平成 20 年度報告書」を発刊し、報告している。

この間に平成 20 年 5 月に「成熟したシビルエンジニア、その活性化に、向けて」と、平成 21 年 5 月に「“NPO 活動” その多様な展開—シビルエンジニアに期待されること—」と題するシンポジウムを開催してきた。

2. 平成 21 年度の活動

平成 21 年度の活動の調査・研究の成果は「成熟したシビルエンジニア活性化小委員会 平成 21 年度報告書」を発刊し、報告している。

3. 平成 22 年度の活動

平成 22 年度は、4 年間の研究を一応締めくくることが前提に研究を行ってきた。本年度は、詳細は後に述べるが、項目だけ列記すると以下のような活動を行ってきた。

- (1) シンポジウムの開催
- (2) 人材結合システムの技術推進機構への提言
- (3) NPO 中間支援組織設立に関する理事会への提言
- (4) 「成熟したシビルエンジニア活性化小委員会 平成 22 年度報告書」の発刊

1) 各ワーキンググループの活動

当小委員会、は平成 19 年度に発足し、平成 22 年度まで 4 ヶ年の活動を行ってきた。1 年目に設定した以下の 3 つの各ワーキンググループは、人材結合支援システム研究グループに平成 21 年度からソーシャルビジネス研究を加えただけで、3 つのグループ分けは変えずに活動を行い、今年度で一応初期の目的は達したと考えている。

- (1) 人材結合支援システム、ソーシャルビジネス調査研究グループ
- (2) NPO 調査研究グループ
- (3) 役割り企画検討グループ

3 つのワーキンググループはそれぞれの活動成果を、平成 20、21、22 年度の 3 冊の「成熟したシビルエンジニア活性化小委員会 活動報告書」に掲載すると共に、それぞれ土木学会理事会や技術推進機構に提言という形で活動成果を発信し、その後の活動をフォローしてきた。

(1) 人材結合支援システム、ソーシャルビジネス調査研究グループ

- ① 人材結合支援システムについては、平成 21 年度で一応の成果を得て、平成 22 年 4 月には土木学会技術推進機構にシニア会員へのサービス向上策として提言した。
- ② ソーシャルビジネスに関する研究については、シビルエンジニアが活躍できるソーシャルビジネスのモデルを研究し、起業化の手順までを纏めて報告書に掲載した。

(2) NPO 調査研究グループ

- ① 「新しい公共」の担い手になる建設系 NPO の活性化が必要であるとの立場から、理事会に「土木学会による建設系 NPO 中間支援組織の立上げと支援」の提言を行った(2010.11.19.)。

- ② 提言の具体化に向けて、教育企画・人材育成委員会の中に「建設系 NPO 中間支援組織設立準備委員会」を立ち上げた。
- ③ 来年度には、教育企画・人材育成委員会及び会長、専務理事等の承認を得て、「建設系 NPO 中間支援組織設立準備会」を立ち上げる予定である。

(3) 役割り企画検討グループ

- ① 平成 21 年度に、土木学会はシンクタンク機能を立上げて、20～30 年先を見据えた社会資本整備のマスタープランや海外展開施策を作り、広く社会に発信すべきであるとの立場から、理事会に「我国の土木界が活力を取り戻すために土木学会が果たすべき役割」の提言を行った（2010.1.22.）。
- ② この提言の扱いを企画委員会が担当することになり、平成 22 度は、当小委員会役割り企画検討グループから企画委員会に委員兼幹事で 1 名を送り、シンクタンク機能の立ち上げに向けた議論に参画してきた。
- ③ 平成 23 年度には、シンクタンク機能を担う小委員会が企画委員会の下に発足する見込みであり、委員の公募に当小委員会委員の数名が応募することになっている。

2) シンポジウムの開催

平成 22 年 7 月 27 日(火)に土木学会講堂でシンポジウム「新しい公共、NPO そしてソーシャル・ビジネス ―その土木界における位置づけと展開―」を開催した。「新しい公共」を土木界としてどう受け止めるのか、その担い手をどう育てていくのか等について基調講演で東洋大学の根本祐二教授にお話頂き、アンカーとして土木学会の阪田憲次会長に土木学会の取り組みについてお話いただいた。

3) 土木学会誌への投稿

土木学会誌平成 22 年 6 月号に **CE レポート**:「わが国社会の持続的発展に対する土木界の役割」と **ピックアップ**:「成熟したシビルエンジニアの活性化に向けて ―小委員会のこれまでの活動と今後―」として掲載した。

4) 成熟したシビルエンジニア向けの会員サービスの向上策への参加

平成 21 年度に「財政強化のアクションプログラム」の中で提案した「成熟したシビルエンジニア(シニア技術者)会員の諸活動支援」の会員サービスの向上については、土木学会の予算措置がなされなかったため、残念ながら活動できなかった。

4 今後の活動

1) 活動目標

- (1)平成 22 年度までの活動で行った 3 つの提言の実現化に向けて、関係委員会への委員の派遣も含めて後方支援を行う。
- (2)従来の研究テーマについては平成 22 年度までの活動で一応の結論が出たので、平成 23 年度から新しい研究テーマ、体制で研究を開始する。

2) 研究テーマ

成熟したシビルエンジニアは、少子高齢化の時代にあって、定年後 10 年間は働くべきであるとの視点から、その活性化方策について研究する。そのために、社会のニーズを把握し、展開分野を整理すると共に、成熟したシビルエンジニアが新しい分野で活躍するための、教育・人材育成のあり方について研究する。

3) 研究体制

公募により新委員を募集し、小委員会のメンバーの補強を行って、進める。